

2018(仏暦2561)年 秋号 (第106号)

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



■住職法話

どう生きるか、そして、どう死ぬか

■浄土真宗 ◎仏事のイロハ

■本願寺の本

浄土真宗やわらか法話 1

■お知らせ、編集後記

Photo

今秋の紅葉は、強風もなく気象条件が良かったのか、色づき良く長く楽しめたようです。エルニーニョ現象で暖冬の予報が出ています。異常な気象が続くのでしょうか。近ごろ心配になります。

住職 法話

どう生きるか、そして、どう死ぬか



10/29 読売新聞 朝刊



10/29 朝日新聞 朝刊

この九月に往かれた樹木希林さんです。私の大好きな方のおひとりでした。

これは、十月二十九日付の各紙に掲載された、宝島社という出版社の今年の企業広告です。宝島社ホームページから見る事が出来ます。希林

さんの過去の言葉をもとに作られていて、仏さまの見方にもつながるところが多いので抜粋してみようと思います。

まずは、『サヨナラ、地球さん。』と題して、「いまの世の中って、ひとつ問題が起きると、みんなで徹底的にやっ

つけるじゃない。だから怖い。自分が当事者になることなんて、だれも考えていないんでしょね。／日本には「水に流す」という言葉があるけど、桜の花は「水に流す」といったことを表しているなと思うの。何もなかったように散って、また春が来ると咲き誇る。桜が、毎年咲き誇るうちに、「水に流す」という考え方を、もう一度日本人は直すべきなんじゃないかしら。」

『あとは、じぶんで考えてよ。』と題して、「絆という言葉のを、あまり信用しないの。期待しすぎると、お互い苦しくなっちゃうから。／死に向

かって行かう作業は、おわびですね。謝るのはお金がかからないから、ケチな私にピッタリなのよ。謝っちゃったら、すっきりするしね。／このように服を着た樹木希林は、死ねばそれで終わりですが、またいろいろなきっかけや縁があれば、次は山田太郎という人間として現れるかもしれない。」

回り回って自分が当事者になる恐ろしさを考えると、「水に流す」という見方が出来る。家族も、「絆」などというつながりではなく、あらゆるものが何かのきっかけや「縁」でつながっているという見方が、仏教の縁起の教えです。



浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

「購入時期と場所」

お仏壇はいつ、どこへ置けばよいか？

お仏壇が、真実の依りどころとなる仏さまをお迎えして、そのお心と浄土を味わうところなのです。購入時期については、家族に死者が出ようが生まれが、それに影響されずに求めるのが一番です。

ただ、何かのきっかけ（仏教では「縁」とよく言います）で行動するのが私たちの習性でもあります。仏教の行事、たとえば、お彼岸とかお

盆に、と考えてもよいでしょうし、自分の誕生日を「縁」というのもあるでしょう。また、そういうことでは、結果的にどなたかが亡くなられたのを縁に、というのはあり得ます。

しかし、お仏壇を求めたいという気持ちがあっても、「死者が出る」といけなから、今は止めておこう」というのはいただけません。「お仏壇を購入すること」「死者が出る」こととの間に、因果関係はまったくありません。そういう風に思う人がいたら、その人の心が迷っているのです。日の吉凶というのではありません。自分たちが気持ちよく、余裕を持って仏さまを迎えられる日が一番よい日です。

お仏壇を求めたならば、次に置く場所です。このポイン

トは、心が落ち着ける場所を選ぶことです。玄関先や、部屋の出入り口近くでは、人がよく通るので落ち着きません。また、外の光がお仏壇の背後から差し込む方角だと、お仏壇に向き合う人にとって逆光となるので、眩しくて心が集中できません。「北向き」の方角を気にするよりも、実際の光の入り具合を考えて、向きを決めてください。

さらに小型のお仏壇では、タンスの上などの高いところには置かないことです。逆に、直に床に置くと、低く見降



るさねばならないでしょうから、これも避けます。目の高さより少し上に、「本尊の仏さまが拜めるように置いてください。」

もう一つ付け加えるならば、落ち着ける場所に置くとよいと言いましたが、家族がいつも寛ぐリビングに置いてよいでしょう。皆で手を合わせ、お勤めするなどして日ごろから親しむことが大切です。

- ポイント
- ▼お仏壇を求める日に吉凶はない
- ▼家族が心静かに礼拝できる所
- ▼目より少し上に「本尊を拜す

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」 末本弘然著／本願寺出版社刊より

～本願寺の本～

「浄土真宗やわらか法話 1」 大きな字で読みやすい
本願寺出版社 編 648円(本体600円+税)

大きな字で読みやすい、浄土真宗やわらか法話の第1巻。
月刊誌「大乘」で好評の「暮らしの中の法話 みほとけとともに」が、大きな字で読みやすい短編法話集になりました。心やわらぐ12編の法話を掲載。阿弥陀さまのご本願をいただき、その喜びを味わうなかで、ともにやさしく心豊かに生きさせて
いただきます。 [本願寺出版社ホームページより]



10月28日 報恩講法要

毎年、10月の最終日曜日は、万行寺の報恩講法要でした。報恩講とは、浄土真宗を開かれた親鸞さまのご命日にあたる法要です。1月16日がご命日ですが、それ以前に取り越して勤められます。

今年は、法要に合わせて参拝用の椅子（10脚）を買い揃えました。足の負担を気にせず、落ち着いて皆さまとお勤めができました。

また、椅子席になりましたので、年忌法要など、少人数でしたら気軽にお寺でも出来ます。是非、お使いください。



編集後記

『住職法話』の題は、宝島の広告意図からいただきました。「死生観、人生観、恋愛観、仕事観。樹木希林さんが残された数々の言葉をもとに、世の中に向けて、樹木希林さんからの最後の言葉として2つのメッセージをつくりました。どう生きるか、そして、どう死ぬかに向き合った樹木希林さんの、地球の人々への最後のメッセージ。どう生きるか、どう死ぬかについて、あらためて深く考えるきっかけになれば幸いです。」

◆今年も残りわずか。年々、一年が早く感じます。私も後世に何かしらメッセージが残せるでしょうか。